

# カウチング押え用糸通し

Compatible with #72



## 製品について

### セット内容

- ・カウチング押え用糸通し、糸穴直径 1.4 mm (マーキングなし) 1個
- ・カウチング押え用糸通し、糸穴直径 1.8 mm (マーキング2つ) 1個
- ・カウチング押え用糸通し、糸穴直径 2.2 mm (マーキング3つ) 1個

### 使用方法

- ・毛糸や糸、コードの縫い付けに。
- ・フリーハンドキルティングやテンプレートを使用したキルティングに。

### 安全にご使用いただくために

当製品をご使用の前には、必ず当製品およびミシンの取扱説明書をよくお読みください。



## 使用方法



### コードを縫い付ける

#### 準備

- > カウチング押え用糸通しを押し金の下から押し込んで取り付けます。
- > 送り歯を下げます。
- > 押し金をミシンに取り付け、できればミシンのメニューから押し金を選択します。
- > コードが押し金の下をスムーズに動くように、調節ネジで押し底の高さを調節します。
- > コードに合った針を取り付けます。針は最大で90番までを使用します。
- > 送り長さが短めの直線縫いに設定します。



#### 糸通しを使用する

- > 布地を押し金の下に入れます。
- > 一針縫って、下糸を出します。
- > コードを輪っかになるように、上糸の後ろ側に引き出します。
- > コードを固定するために、コードの輪っかの部分を手前の布地の上に引いて押さえ、一針縫います。(図1)
- > 押し金を上げて、コードを押し底の穴に通します。(図2)
- > 布地を縫い始めの位置に合わせたら、押し金を下げ、縫い始めます。コードが押し底の穴をスムーズに通るように、コードは余裕をもって布地の上に置きます。(図3)
- > コードは手前から縫う方向へ送ります(図4)。硬いコードやねじれやすいコード、丸まりやすいコードなどは、押し金の後ろからコードを送ります(図5)。その際、針でコードを傷つけないように注意します。

5



#### ヒント

- > 糸通しは、コードに合わせて選びます。糸通しに対してコードが太すぎると、キルティングの際に叩くようなノイズが発生します。糸通しに対してコードが細すぎると、縫い目が飛ぶ恐れがあります。
- > 針板は、直線縫い専用針板が最適です。
- > 針位置は、できる限り《針位置 下》に設定することをお勧めします。針位置を下にすることで、布地の位置を変えても、同じ位置から縫い続けることができます。
- > 押え金の上下の動きは、できるだけ少なくします。押え圧は0または弱く設定します。
- > 布用マーカーなどでコードを縫うラインを下書きしておきます。
- > 太すぎる毛糸や結び目や太さにむらのあるコードは避けます。
- > モノフィラメント糸を使用すると、縫い目がほとんど見えずにき例に仕上がります。
- > 針がコードに刺さらない場合には、押え金の位置を低くします。
- > 布地が押え金の下をスムーズに通らない場合には、押え金の位置を高くします。